

兵庫県南部大地震 記念の日 追悼礼拝次第

日時 2023年1月17日(火)午後6時から
会場 日本基督教団 神戸聖愛教会
オンライン・ライブ配信(YouTube)
主催 日本基督教団 兵庫教区
配信協力 小栗献(神戸聖愛教会)



礼拝ライブ配
信用QRコード

1995年1月17日の阪神・淡路大震災(M7.3)の1年半前、1993年7月12日に北海道南西沖地震・津波(M7.8)がありました。その発生直後から大きな被害のあった奥尻島では、当時北海教区幹事だった山本光一さんを中心とした救援活動がありました。今回の追悼礼拝では、その際に被災者と寄り添う活動を模索されたお話を山本さんから伺います。

私たちは被災者と共にあるために何ができたでしょうか。今なお続く阪神・淡路大震災の被災の現実の中で生き続けておられる被災者と本当にどこまで寄り添ってきたでしょうか。命を奪われた方々とはどうだったのでしょうか。私たちは被災教区として今もその問いのもとに立たされ続けています。

阪神・淡路大震災の犠牲者やそのご遺族はもちろん、各地の被災の現実の中に置かれている方々と共にあるため私たちに何ができるか、もう一度祈りを合わせたいと願っています。

司式 松田道子 (東神戸教会)

奏楽 前田幸子 (神戸聖愛教会)

前奏	“Prelude on 'Abide with me' Eventide” (Malcom Archer)	奏楽者
招き	詩編 116 編 9 節～11 節 (p.4)	司式者
告白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白 (p.6～7)	一同
黙禱		一同
うた	備えて祈れ (『讃美歌 21』 440 p.8～9)	一同
祈り		司式者
うた	花彩る春を (『讃美歌 21』 385 p.10～11)	一同
聖書	マタイによる福音書 25 章 35～40 節 (p.12)	司式者
説教	『ボランティアお断り』 山本光一 (隠退教師・元北海教区幹事)	
祈り	1月17日 人と自然の共存を祈る (p. 13)	一同
うた	あなたの道を (『讃美歌21』 528 p.14～15)	一同
終禱		説教者
後奏	“Kojiki Cogitatio” Missa pro Defunctis より (Javier Busto)	奏楽者
報告		

※礼拝献金は、被災者生活支援・長田センターを通して、被災者の生活支援のために用いさせていただきます。

出入り口に籠を置いておりますのでお献げください。

オンラインの方は以下の口座宛に「追悼礼拝献金」と明記の上お振り込みください (1 月末締切)。

郵便振替口座 01120-7-25121「日本基督教団兵庫教区事務所」

招き

いのち ち かぎ
命あるものの地にある限り

しゅ みまえ あゆ つづ
わたしは主の御前に歩み続けよう。

しん
わたしは信じる

はげ くる おそ い
「激しい苦しみに襲われている」と言うときも

ふ あん ひと かなら あざむ おも
不安がつわり、人は必ず欺く、と思うときも。

(詩編 116 編 9 節～11 節『新共同訳聖書』)

告白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示さ

れた、試練と恵みの神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一様でなく極めて多様で、それぞ

れに固有の生活体験であることを知る。しかし、その個々

の生活に働かれる神の臨在を認識した。そして固定化し

た福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳しく

と問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関

わりと参与、その日常性のあり方を問われた。被災の

現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさ

を生きることであると信じる。

わたしたちは、大地震という未曾有の出来事を経験し

た。おびた^しだ^{まえ}しい死^{あつとう}を前^{かな}に圧倒^{かな}されながら、悲^{かな}しむよりほか
ない現^{げんじつ}実^むと向^あかい合^{たいせつ}うこ^しの大切^{どうじ}さを知^しった。同^{どうじ}時に、イ^{どうじ}エ
ス・キ^{れきし}リス^{けいじ}トにお^{かみ}いて歴^{かみ}史^{ひさい}に啓^{かみ}示^{ひさい}され^{かみ}た神^{ひさい}は、被^{かみ}災^{ひさい}のた^{かみ}だ
中^{なか}にも臨^{りんざい}在^{りんざい}され^{りんざい}てい^{りんざい}るこ^{しん}とを信^{しん}じ^{しん}る。

わたした^{げんじつ}ちは、現^{げんじつ}実^{くなん}の苦^{くなん}難^{なか}の中^{いのち}にあ^{いと}る生^{いと}命^{いと}の営^{いと}みと、そ
の^で出^あ会^{なか}いの中^{なか}にこ^{かみ}そ神^おは居^{しん}られ^{しん}るこ^{しんこう}とを信^{しん}じ^{しんこう}る。そ^{しんこう}の信^{しんこう}仰^{しんこう}
によ^みって未^み知^ちの^ふもの^わを踏^{ことば}み^{つむ}分^{つむ}け^{つむ}つ^{つむ}つ^{つむ}言^{つむ}葉^{つむ}を^{つむ}紡^{つむ}ぎ^{つむ}だ^{つむ}して^{つむ}い^{つむ}く
こ^{ふくいんせんきょう}とが福^{ふくいんせんきょう}音^{ふくいんせんきょう}宣^{ふくいんせんきょう}教^{ふくいんせんきょう}と信^{しん}じ^{しん}る。

わたした^{ひさい}ちが被^{ひさい}災^{げんじつ}の現^{なか}実^{なか}の中^{ちいき}で、『地^{さいせい}域^{さいせい}の再^{さいせい}生^{さいせい}な^{さいせい}く^{さいせい}て、
教^{きょうかい}会^{ふっこう}の復^{ふっこう}興^{ふっこう}は^{あゆ}あり^{あゆ}え^{あゆ}ない』と^{あゆ}して歩^{あゆ}ん^{あゆ}で^{あゆ}き^{あゆ}た^{あゆ}こ^{あゆ}とが、神^{かみ}の^{まえ}前^{まえ}
に^た立^たつ^たわ^たた^たし^たち^たの^{しんこう}信^{しんこう}仰^{しんこう}の^{おうとう}忘^{おうとう}答^{おうとう}で^{おうとう}あ^{おうとう}る^{おうとう}と^{おうとう}告^{こくはく}白^{こくはく}す^{こくはく}る。

アーメン

うた 備えて祈れ (『讚美歌 21』 440)

Mache dich, mein Geist, bereit
 詞 : Johann B. Freystein, 1671-1718

STRAF MICH NICHT
 曲 : Hundert geistlicher Arien, 1694

1 そい - えりての いの れ、 わたし の こ こ ろ、
 2 な の - りの こえに、 み たし の か た こ ん、
 3 し ん - こ う こ も っ て、 い み の ろ と き む け、
 4 な や - み と ふ あ ん お そ う と き き に も

あ く - の ち か ら が あ ら わ れ る と き。
 > わ た - し の さ け び て、 あ き ら い れ ら と れ る。 >
 > ま の - 名 に よ っ て、 せ ね が いる も と き め よ。
 > く る - し み、 し れ ん、 ま せ ま と き に も >

> さ め て い の れ、 あ す く ま - の さ そ い
 > さ め て い の れ、 あ す べ て - の の つ み の >
 > さ め て い の れ、 あ す ゆ た か - な さ つ み の >
 > さ め て い の れ、 お わ り - の と き は

せ ま る と き に も。
 ち か み ら は く き え る。
 ち か み は く だ さい る。
 ち か づ い て さい る。

ア - メ ン。

(♩=92)

- 1 そな備えていの祈れ、わたし私の心、
あく悪ちからの力が あらわ現れる時。
さ覚めて いの祈れ、
あく悪魔さその誘い ときせまる時にも。
- 2 いの祈りの声こえに みみ耳を傾け、
わたし私の叫び き聞き入れられる。
さ覚めて いの祈れ、
すべてすべての罪つみの ちから力は消える。
- 3 しんこう信仰もって いの祈る時ときには、
しゅ主の名なによって ねが願もとい求めよ。
さ覚めて いの祈れ、
ゆた豊かなめぐ恵み かみ神はくださる。
- 4 なや悩みと不安 ふあんおそう時ときにも
くる苦しみ、しれん試練、ねがせまる時ときにも
さ覚めて いの祈れ、
お終わりの時ときは ちか近づいている。

うた 花彩る春を (『讚美歌 21』 385)

詞：上島美枝，1961-

INOCHI
曲：高浪晋一，1941-

1 はないろどるはるを このともは 生きた、
 2 みどりもえるなつを このともは 生きた、▶
 3 いろづきゆくあきを このともは 生きた、▶
 4 ゆきかがやくふゆを このともは 生きた、▶

いのち - みたす あいを うた い つ つ。
 ▶ いのち - いかす みちを もとめ つ つ。▶
 いのち - ひとの ために もやし ら つ つ。
 ▶ いのち - あた ため つ つ やす ら か に。▶

▶ な や み つ ま ず く と き、 こ の と も の う た が
 ▶ な や み つ ま ず く と き、 こ の と も の す が た ▶
 な や み つ ま ず く と き、 こ の と も は し め す
 ▶ こ の 日、 目 を と じ れ ば お も い う か ぶ の は ▶

わ た し を つ れ も ど す 主 の み ち へ。
 ▶ わ た し を ふ り か え る 主 の み ち ち で。
 ▶ あ ゆ み つ づ け て き た 主 の み ち ち を。
 こ の と も を つ つ だ 主 の ひ か り。

(♩=88)

1 花^{はな}彩^{いろど}る春^{はる}を この友^{とも}は生^いきた、
 いのち満^みたす愛^{あい}を 歌^{うた}いつつ。
 悩^{なや}みつまずくとき、この友^{とも}の歌^{うた}が
 私^{わたし}をつれもどす 主^{しゅ}の道^{みち}へ。

2 緑^{みどり}もえる夏^{なつ}を この友^{とも}は生^いきた、
 いのち活^いかす道^{みち}を 求^{もと}めつつ。
 悩^{なや}みつまずくとき、この友^{とも}のすがた
 私^{わたし}をふりかえる 主^{しゅ}の道^{みち}で。

3 色^{いろ}づきゆく秋^{あき}を この友^{とも}は生^いきた、
 いのち 他^{ひと}人^{ひと}のた^ために 燃^もやしめつつ。
 悩^{なや}みつまずくとき、この友^{とも}は示^{しめ}す
 歩^{あゆ}みつづけてきた 主^{しゅ}の道^{みち}を。

4 雪^{ゆき}かがやく冬^{ふゆ}を この友^{とも}は生^いきた、
 いのちあ^あたためつつ やすらかに。
 この日^ひ、目^めを閉^とじれば 思^{おも}い^いうかぶのは
 この友^{とも}を包^{つつ}んだ 主^{しゅ}の光^{ひかり}。

ア-メン。

コヘ12:1-2 ルカ2:25-38 詩71:18-19, 119:9

聖書 マタイによる福音書 25章 35～40節

³⁵お前^{まえ}たちは、わたしが^う飢えていたときに^た食べさせ、のどが^{かわ}渴いていたときに^の飲ませ、旅^{たび}をしていたときに^{やど}宿を貸し、^{はだか}裸のときに^き着せ、病^{びょう}気^きのときに^み見舞い、牢^{ろう}にいたときに^{たず}訪ねてくれたからだ。』³⁷すると、正^{ただ}しい人^{ひと}たちが^{おう}王^{こた}に^{しゅ}答^{こた}える。『主^{しゅ}よ、いつわたしたちは、^う飢えておられるのを見て^み食^たべ物^{もの}を^さ差し上げ、^あのど^{かわ}が渴いておられるのを見て^み飲^のみ物^{もの}を^さ差し上げ^あたでしょうか。³⁸いつ、^{たび}旅^{たび}をしておられるのを見て^みお宿^{やど}を^か貸し、^{はだか}裸^{はだか}でおられるのを見て^みお着^きせしたでしょうか。³⁹いつ、^{びょう}病^{びょう}気^きを^ななしたり、^{ろう}牢^{ろう}におられたりするのを見て、^みお訪^{たず}ねしたでしょうか。』⁴⁰そこで、^{おう}王^{こた}は^い答^{こた}える。『はつきり^い言^いっておく。わたしの^{きょう}兄^{きょう}弟^{てい}であるこの^も最^も小^{ちい}さい者^{もの}の^{ひとり}一人^{ひとり}にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(『新共同訳聖書』)

祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ わたし しぜん なか い い
神さま、私たちが自然の中で生き、生かされていることを

かんしゃ
感謝します。

じぶん しぜん なか いちぶ
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その

しぜん なか い わす
自然の中で生かされているということをすぐに忘れてしまい

にんげん にんげん ち え ちから い
ます。いつも人間だけが、人間の知恵や力によって生きて

うえ じぶん しぜん しはい
いて、その上、自分たちが自然を支配しているかのように

かんちが
勘違いしてしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう
あの大地震をとおして、自分たちが考えている以上に

さまざま ささ はげ し え いま わたし
様々な支えや励ましがあつたことを知り得た今、私たちは

しぜん たい ささ なぐさ とも い なかま
自然に対しても、支えられ、慰められ、共に生きている仲間

おほ おも
であることを覚えていきたいと思ひます。

けつ にんげん しぜん しはい
決して人間が自然を支配しているものではないというこ

おほ
とを覚えるために。

アーメン

うた あなたの道を (『讃美歌21』 528)

Befiehl du deine Wege
 詞 : Paul Gerhardt, 1607-1676

BEFIEHL DU
 曲 : Johann M. Haydn, 1737-1806

1 あな たの - み - ち - を 主 に ま - か せ て
 2 ど ん な と - き - に - も み ち を - そ な え、
 3 あ く が し - は - い - し お ど す - と き も
 4 は し る べ - き - み ち を は し り - お え て

お も い わ - ず - ら - い 主 に ゆ - だ ね よ。
 > あ な た の - わ - ざ - を か み は - し ゆ く す。 >
 > さ き だ つ - か - み - は た た か - わ れ る。
 > 栄 光 の み - く - に - へ か え る - そ の 日、 >

く も と か ぜ に - も み ち を し - め - す
 > い つ も あ な た - の さ き に す - す - み >
 も く ひ ょ う め ざ - す あ な た の - た - め
 > し ょ う り の か ん む - り あ た え ら - れ - て >

か み は あ ゆ み - を み - ち び - か れ る。
 ▶ ひ か り を て ら - し み - ち び - か れ る。
 な す べ き つ と - め あ - た え - ら れ る。
 ▶ よ ろ こ び の う - た と - も に - う た お う。

(♩=88)

1 あなたの道を 主にまかせて
 思いわずらい 主にゆだねよ。
 雲と風にも 道を示す
 神は歩みを 導かれる。

アーメン。

2 どんな時にも 道を備え、
 あなたのわざを 神は祝す。
 いつもあなたの 先に進み
 光を照らし 導かれる。

3 悪が支配し おどす時も
 先立つ神は 戦われる。
 目標めざす あなたのため
 なすべき務め 与えられる。

4 走るべき道を 走り終えて
 栄光のみ国へ 帰るその日、
 勝利の冠 与えられて
 喜びの歌 共に歌おう。

ヘブ12:8-9 哀3:25 詩37:5-9, 31:2-7
 IIテモ4:7-8 フィリ3:12-16

